

公益社団法人 日本技術士会 男女共同参画推進委員会 第5回 D&I フォーラム 開催報告

1. 開催概要

- ・日時：2023年6月11日（日）14:00～16:30
- ・方法：Zoomによるオンライン
- ・主催：公益社団法人 日本技術士会 男女共同参画推進委員会
- ・参加者：83名（男女共同参画推進委員会委員・委員補佐10名＋外部73名）
- ・テーマ：「D&I から DE&I へ～Equity(公平性)の意義を考える～」
- ・プログラム：
 - 14:00 開会挨拶（河津副会長）・趣旨説明（石田委員長）
 - 14:10 講演「しなやかに DE&I に取り組むために」（中条薫氏）
 - 15:05 質疑応答
 - 15:25 グループディスカッション（参加者全員：4～5人のグループに分かれてディスカッション(説明：飯島 D&I 小委員長))
 - 16:05 グループ発表（全体共有）、講師コメント
 - 16:25 記念撮影、閉会挨拶（小牛田副委員長）
- ・司会進行：瀬尾 弘美（D&I 小委員会委員）

2. 内容

(1)開会挨拶 公益社団法人 日本技術士会 副会長 河津 宏志

日本技術士会においても男女共同参画を重要な位置づけとしている。本日は、DE&I をテーマとして公平性（Equity）について、中条様より講演をいただく。自分も経営者であるが、社員採用等において DE&I が重要と感じている。本日の講演が、DE&I についてさらなる一歩を踏み出すきっかけになればと思う。今回のフォーラムが日本における DE&I の意義の浸透につながり、参加の皆様にとっても有意義なものとなるように期待したい。

(2)趣旨説明 男女共同参画推進委員会委員長 石田 佳子

当委員会は2011年5月に発足し、科学技術分野における男女共同参画の支援等を行っており、女子学生・女性技術者支援と D&I の2つの小委員会で活動している。女性技術士は全技術士の2.4%と現状では少ないが加速度的に増加しており、そのような状況の中、当委員会では D&I 関連のイベントとして、学習会やフォーラムを開催している。今回が第5回のフォーラムとなるが、このフォーラムに限らず、本委員会では参加型のイベントを多く実施しているため、楽しんでいただければ幸いである。



(3)講演「しなやかに DE&I に取り組むために」中条薫氏

- ・G7における日本の現状を見ると、GDP が最下位で労働時間も長い
ため、労働生産性は最も低い。合計特殊出生率も6位と低い。
さらに、男女間の賃金に格差があり、指導的立場にいる女性も圧倒
的に少なく世界の状況と大きく離れているため、ジェンダー・ギャ
ップ指数は最下位である。幸福度もG7中で最も低い。
- ・上記については複数の原因が考えられるが、その一つに性別分業



となっている社会構造の問題がある。性別分業は高度経済成長を支えた一方で同質性の高い政治・経済社会を形成してしまい、多様性が重要となっている現代社会においては社会構造としてのひずみとなっている。

- ・今後の人口減少を考慮すると GDP が 25%減少するという予測もあり、女性の活躍を含む構造改革が必要である。また、外国人が日本で活躍できる環境を作るためにも、日本では DE&I の加速が必要である。
- ・DE&I における公平性 (Equity) と平等 (Equality) は異なる。例えば、皆が機会にアクセスできるように平等なサポートをしたつもりでも、ある人たちにとってはサポートになっていないことがある。異なる状況にある人々に同じサポートをするのではなく、それぞれの状況に応じたツールやリソースを提供し、機会へのアクセスを平等にすることが Equity である。
- ・人と人に違いがあることは当然で、その違いを活かすアクションが行われていることが必要であり、その手段として Equity が大切である。
- ・日本では、指導的立場の女性が少ない状況が課題となっているが、他国にはクオータ制を取り入れ時間をかけて社会構造のひずみを補正してきた歴史がある。例えば、インドでは村議会の 1/3 を女性とすることで、公共財アップ、賄賂の減少等の効果が生まれ、女性議員をロールモデルとして社会に変化が生じた。
- ・DE&I を進めるための 5 つのヒントとして、1) 自分および会社にとっての目的、つまり「何のために」を明確にすること、2) 「価値観」について考えること、3) 「自分の中の多様性」を養うこと、4) 「違いを楽しむマインド」を醸成すること、5) 「人生に Sense of Wonder を」という考え方があげられる。好奇心は脳に空白 (疑問) を作ることで生まれるため、自分に良い質問を投げかけることが好奇心を持ち続けるポイント。これらの 5 つのヒントはしなやかな心を持つことにもつながる。

(4) 質疑応答

Q1: インドの地方議会において 1/3 を女性枠、女性議長も 1/3 以上としているにもかかわらず、いまだ女性の立場が劣悪な状態は、何が問題でしょうか？

A1: おそらく時間が必要なのだと思う。社会・意識を変えていくのには時間がかかる。女性の立場が低いということには長い歴史があるが、いかにスピーディーに変化を起こしていくかが大切である。

Q2: 女性の役員比率について、例えばフランスの女性役員比率は約 50% に達しようとしているが、時間をかけて、この状況を作ってきたのだと思う。すんなりとはいかなかった点も、あったのではないかと思うが、そのあたりを補足いただければと思う。

A2: フランスの事例の詳細は把握しきれないが、日本では比率が低い状況を改善しようとする動きが加速されている。外圧による女性役員の登用にはメリット・デメリットがあるが、実績を作って、効果を実感し、意義を学びながら進んでいくことが大切であると感じている。

Q3: 事例の紹介に関連して、小学生の子どもが選ぶものがそもそもランドセルじゃなきゃいけないのかといった視点はないか。

A3: 紹介した事例は、子ども達が自分の好きなものを選ぶことの大切さを実感していただきたくて選んだものである。勿論ランドセル以外が選択できる環境は重要であり、実例として私の子供はランドセル以外を選択した。学校や大人が多様性を受け入れることが必要と考える。

Q4: 日本で女性の政治参加が少ないのは、女性の負担が多すぎるのが原因ではないか？

A4: 日本では女性が家事を担ってきた歴史がある。例えばアメリカでも女性の家事負担は男性より大きいですが、夫婦 2 人で家事や育児をするというマインドは日本より進んでいるように感じる。自分で選択できる環境を作ることが大切であり、若い世代の意識を含めて、社会全体でマインドを変えていくことが必要と感じる。

(5)グループディスカッション・グループ発表

3～6人の15グループに分かれ、先ず自己紹介を行い、役割（進行、書記、タイムキーパー）を決めた後に、①印象に残ったこと、②自分がこれからしようと思うことについて、35分間のグループディスカッションを行った。その後、各グループの代表者からディスカッションの内容を紹介いただいた。



ディスカッションの内容の紹介に加えて、技術士会の理事に女性枠を設けてはという提言もいただいた。また、男性・女性ということだけでなく、個人の状況に応じて選択できることが重要であるという意見等、広く様々な意見について紹介いただいた。

講師コメント：DE&Iについて前向きな意見が多かった。DE&Iは、日本ではまだ過渡期であり、状況も様々である。自分の会社の中の話だけで悩むのではなく、他の会社や他の環境の方と話をすることが大事であり、周囲を広く見て、働きかけていくというところを意識していただけると変わっていくのではないかと感じた。

(6)閉会挨拶 男女共同参画推進委員会副委員長 小牛田 尋志

休日にも関わらず多くの方にご参加いただいた。今回は Diversity（多様性）& Inclusion（包括性）に Equity（公平性）を加えた、今後の変革を促すテーマであった。参加された皆さんは、今後 DE&I を進めるリーダーとなっていられる方々だと考える。是非、今回の内容を参考として取り組んでいただければと思う。



しなやかな心を大切にという講師のお話があったが、私もそれを心に刻んで DE&I を進めていきたい。本日はありがとうございました。

(7)アンケート結果

終了後のアンケートでは 83 名から回答があった。フォーラムへの満足度は高く、8 割以上の方が「十分満足」又は「やや満足」と回答いただき、その理由としては「事例も踏まえた講演内容がわかりやすかったこと」や「グループワークで企業の方とディスカッションできたこと」などがあげられた。また、今回のフォーラムを踏まえて「自らアクションするか？」という問いについては、約半数の方が何らから取り組む・取り組みたいと回答され、参加者の今後の取り組みのきっかけになっている状況であった。今後の男女共同参画推進委員会に期待することとしては、今回のような企画の継続があげられ、より若い方（20～30 代）の参加や女性の参加率向上等を望む声も聞かれた。

(8)記念撮影（参加者の一部）



以上

【記録作成】加藤 靖広